

北海道浮魚ニュース

平成 14(2002)年度 22 号 (通巻 No.142)

2002 年 10 月 9 日

北海道立水産試験場

道東太平洋サンマ南下期調査結果

北辰丸(釧路水産試験場調査船)で行ったサンマ南下期調査の結果をお知らせします。

調査期間:2002 年 9 月 30 日~10 月 8 日

調査海域と調査点(図 1):道東太平洋(39° 50'N~42° 19'N,144° 00'E~146° 50'E)
の 9 調査点(漁獲調査は 4 点)

調査方法:9 種類の目合(22,25,29,37,48,55,63,72,82mm)の流し網を用いた漁獲試験

1. 漁獲尾数(図 1, 表 1)

流し網による調査の結果,サンマの総漁獲尾数は 2,168 尾で,CPUE*は 38.6 尾でした。調査時期が昨年と異なる(昨年は 9 月中旬)ため単純に比較できませんが,漁獲尾数,CPUEともに昨年(漁獲尾数:8,125 尾,CPUE:96.5 尾)を大幅に下回りました。

*CPUE:調査 1 回流し網 1 反あたりの漁獲尾数

調査点別にみると,もっとも漁獲尾数が多かったのは ST.5 の 1,243 尾でした。この時期のサンマは,親潮水(冷水)の中を北方四島周辺から北海道・本州方面に向けて南下します。漁獲が多かった ST.5 は,親潮水(冷水)と暖水の境界(潮目)の親潮水側に位置し,サン

マが暖水に入れずにこの調査点周辺に多く分布していたものと思います。同じく潮目の親潮側にあった ST.3 では漁獲が少なかった(221 尾)ののですが,これは底群れであったため流し網にはかかりづらかったのではと思います。

一方,親潮第 2 分枝(沖合の冷水)内の ST.7 では,サンマはほとんど漁獲されませんでした。しかし,10 月上旬には茨城水試の調査船(水戸丸)が親潮第 2 分枝先端域でサンマを 14 トン漁獲し,また操業を行う棒受網漁船も出てきたことから,今後この海域に注目していきたいと思います。

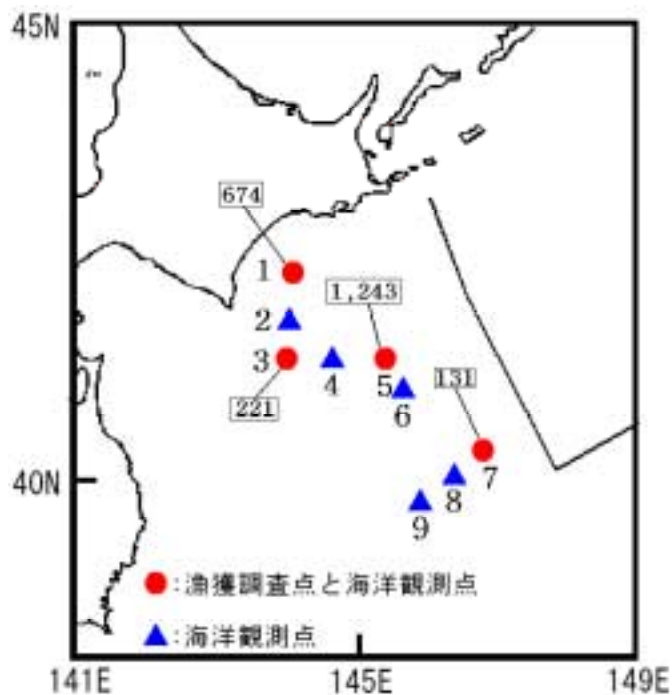


図 1 調査点と漁獲尾数

表1 調査結果一覧

ST	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
揚網日	10.01	10.04	10.05	10.05	10.06	10.06	10.07	10.07	10.07	
位置	北緯 42-19 東経 144-04	41-50 144-00	41-20 144-01	41-20 144-40	41-20 145-20	41-00 145-40	40-20 146-50	40-05 146-25	39-50 145-56	
水深別	0m	12.8	12.8	11.7	15.2	14.8	18.6	16.1	18.6	18.9
水温	50m	5.5	5.0	4.3	4.6	4.5	15.7	12.4	11.0	13.9
()	100m	2.3	2.0	1.4	1.3	1.6	11.7	5.3	10.2	3.4
目	22mm	47		1		4		0		52
合	25mm	110		29		14		0		153
別	29mm	342		113		265		8		728
漁	37mm	165		72		743		18		998
獲	48mm	10		3		214		4		231
尾	55mm	0		3		3		0		6
数	合計	674		221		1,243		30		2,168

2. 体長組成 (図2)

流し網で漁獲されたサンマの体長範囲は、17～34cm 台でした。

銘柄別では、31cm にモードがある特大・大型魚が全漁獲尾数の約 50% を占め、中型魚が約 30%、小型魚・ジャミが約 20% でした。

調査点別では、沿岸に近い ST.1 では中型・小型魚が主体でした。沖合に位置する ST.5、ST.7 では、主に大型・特大魚が漁獲されました。ST.3 は中型・小型魚が主体に漁獲されましたが、夜間の目視結果から判断すると、大型魚が主体に分布していたと思います。

(文責：釧路水産試験場 資源管理部，TEL:0154-23-6222，FAX:0154-23-6225)

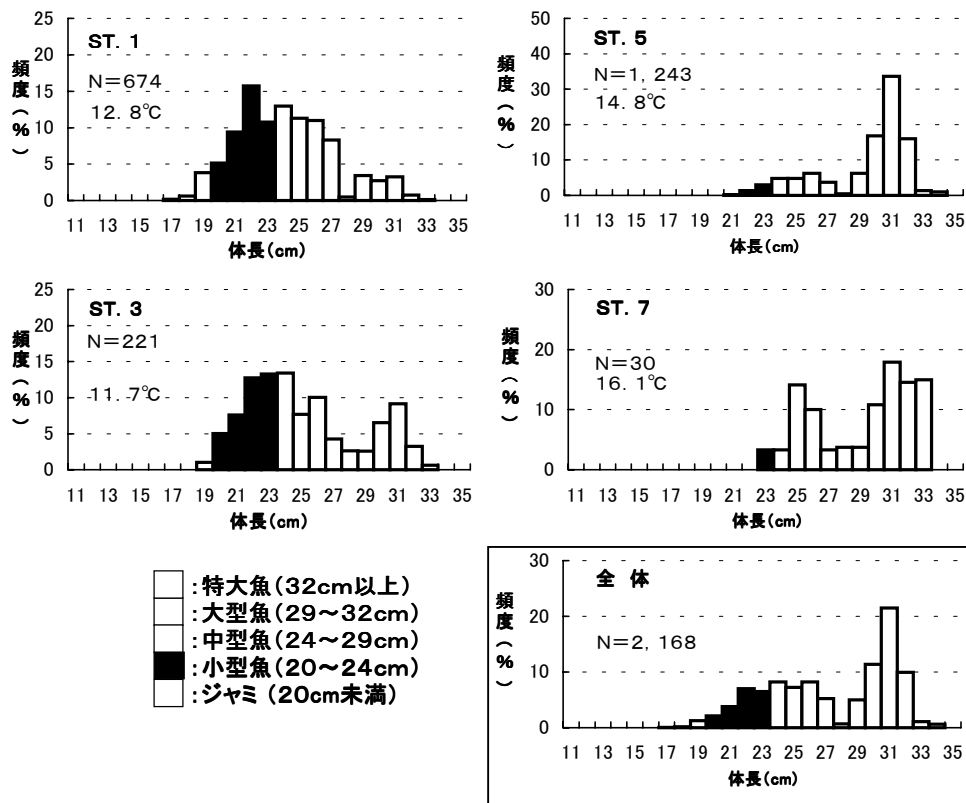


図2 調査点別体長組成 (N は漁獲尾数, 下段は表面水温)